

令和2年12月3日（木）6校時

## 1 単元のデザイン

## 本単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例との関係を理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア
- (2) 段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] Cア
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつことができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] Cオ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに, 幅広く読書をし, 国語を大切にして, 思いや考えを伝え合うとする態度を養う。 「学びに向かう力, 人間性等」

## 単元で取り上げる言語活動

自分の選んだ家について「Go To ハウス キャンペーン」で紹介する。

(関連: [思考力, 判断力, 表現力等] Cオ)

## 児童について

本学級の児童は、「自然のかくし絵」で段落の役割について意識しながら読むこと、「パラリンピックが目指すもの」で中心となる語や文を見つけて要約することを学習してきている。事例について筆者の考えを支えるものであるということは理解できているが、事例の段落を要約することのできる児童は3割程度である。また、自分の考えや感想の持ちにくい児童は約2割いるが、自分の考えや感想を友達と伝え合うことに意欲的で、時間がかかっても自分の考えをまとめようすることができる。

## 教材について

本単元では、自分で調べた家について「Go To ハウス キャンペーン」で紹介するという言語活動を設定している。筆者の世界の家についての考えが明確にしめされていることや、関連の図書資料、新聞資料が豊富であることから、調べ学習を行い、より多くの事例をから筆者の考えに対する自分の感想や考えが深まることが期待できる。

また、教材文が「始め・中・終わり」の文章構成になっていないことも特徴であり、筆者の考えが先に述べられ、後に事例が続くことから、事例の効果を実感させやすい。内容だけでなく、文章構成についての筆者の工夫を読み取る上でも適した教材である。

## 指導について

本単元の指導において、次のような工夫を図る。

一人一人が、筆者の見方や考え方に基づいて、自分の感想や考えが持てるよう、様々な事例を共有する場所として「Go To ハウス キャンペーン」という言語活動を設定している。単元の終末に、ポスターセッションで友達と伝え合うことで、多くの事例によって自分の感想や考えが深まったことを実感させたい。

また、教材文の読み取りにおいて、段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える事例との関係について叙述を基に捉えられるよう、単元の初めに教材文の一部を示し、事例の効果に着目できるようにする。

さらに、筆者によって書かれた関連の図書資料や新聞資料の並行読書を行っていくことや、事例が増えた段階で意図的・計画的に振り返りを行うことで、深い学びの実現を図りたい。

## 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例との関係を理解している。(2)ア)	①「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら考えとそれを支える理由や事例との関係について叙述を基に捉えている。(Cア) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができている。(Cオ)	①進んで、筆者の考えを読み取り、自分の感想や考えを持つという学習の見通しを持って「Go To ハウス キャンペーン」を行おうとしている。

## 3 指導と評価の計画（全 11 時間）（本時 10/11 時間）

次	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一	○教材文で学習したことを生かして、自分の好きな家について紹介するという学習の見通しをもつ。(1)	○筆者による関連の図書資料や新聞資料を示し、なぜ筆者が世界の家巡りをしているのか疑問を持たせる。 ○教材文の一部を示し、筆者の考えを捉えさせ、その後全文と比較させ、単元を通して事例について着目できるようにする。	
二	○教材文を読み、筆者の考えとそれを支える事例との関連について読み取る。 ・文章全体の構成を把握しボリビアやルーマニアの事例について読み取る。 ・モンゴルの家について筆者の考えと関連させながら読み取る。(1) ・チュニジア、セネガルも同様に読み取る。 (2)	○モンゴルの事例を取り上げ、小見出しがあると、内容の中心が一目で捉えやすいことに気付かせる。また、「土地のとくちょう」「地元の材料」「人々のくらし」の観点で内容を整理させることで、筆者の考えと事例とのつながりを実感させる。 ○教材文の一部を示した場合と、3つの事例を学習した場合とを比較させ、事例が増えることで筆者の考えがより深く理解でき、納得感が増すことに気付かせる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〔思考・判断・表現①〕・ ワークシート</p> <p>・筆者の考えに基づいて、事例の内容についてつながりを捉え書き込むことができている。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔知識・技能①〕 ノート</p> <p>・3つの事例が筆者の考えを支えていることについて記述している。</p> </div>

関連の図書、新聞資料の並行読書



<p>三</p>	<p>○自分の選んだ家について「Go To ハウス キャンペーン」で紹介し、感想を交流する。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の家から自分の好きな家を選び筆者の考えに基づいて、内容を整理する。(2)</li> <li>・地域ごとのグループで調べたことを交流する。(2)</li> <li>・「Go To ハウス キャンペーン」を行い、感想を交流する。(1) (本時)</li> </ul>	<p>○教材文の事例以外の家でも自分の選んだ家について調べさせることで、筆者の考えに基づいた感想や考えが持てるようにする。</p> <p>○地域ごとのグループで発表させることで、土地の特徴や人々の暮らしと家の作りや材料にはつながりがあるという筆者の考えを確かめることができるようにする。</p> <p>○ポスターセッションの形式で、3つのグループに分かれ、調べた家について伝え合う際は、話し手も聞き手も筆者の考えとつながっているかどうかに関心を持たせる。</p> <p>○感想を交流する場面や、その後の振り返りでは、教材文をこえて事例を知ることによって筆者の考えに対する自分の感想や考えが深まったことを自覚できるようにする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] ワークシート・観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の家について調べる際には、筆者の考えに基づいているかどうか考えながら、自分の感想や考えを持とうとしている。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現①] ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考えを基にして、世界の家について自分の感想や考えをもつことができている。</li> </ul> </div>
<p>四</p>	<p>○単元の学習を振り返り、単元末テストを行う。(1)</p>	<p>○事例の効果や、自分の感想や考えについて振り返らせ、自らの学びを自覚させる。</p>	

## 4 本時の展開

### (1) 本時の目標

「Go To ハウス キャンペーン」を行い、筆者が考える世界の家について自分の感想や考えをまとめることができる。(Cオ)

### (2) 本時の展開

学習活動 「主な発問」(思考の場) ・予想される児童の反応	◇指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	○評価規準 〔観点〕 (評価方法)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	◇前時を振り返り、筆者の考えに基づいて「GO TO Travel キャンペーン」を行うよう促す。	
小松さんの考えとつなげながら、自分の感想や考えをまとめよう。		
2 「Go To ハウス キャンペーン」をポスターセッションで伝え合う。	◇発表する際、グループのリーダーに、感想や考えを伝える際には、家の造りのおもしろさに終始するのではなく、常に筆者の考えとつながっているのかを確認させる。 ◆話すのが苦手な児童には、一目見て「土地のとくちょう」「人々のくらし」「地元の材料」「家のつくり」が分かるようなポスターを作ってきたことを伝えるとともに、聞き手に考えや感想を引き出すよう声をかける。	
3 全体で感想を交流し、まとめを書く。		
世界にはいろいろな家があるけれど、どの家も小松さんの考えの通りになっていることが分かった。		
4 学習の振り返りをする。		○筆者の考えを基に、世界の家について自分の感想や考えをもつことができている。 〔思考・判断・表現①〕 (ノート)
<p>○期待される児童の姿 (振り返り例)</p> <p>はじめは、たくさん家について、小松さんの考えがすべて当てはまるか分からなかったけど、たくさん事例を知ることによって、小松さんの考えがよく分かった。やっぱり、家は人を包んでいると思った。</p>		

(3) 板書計画

<p>ようこそ！ Go To ハウス キャンペーン 「人をつつむ形―世界の家めぐり」 小松 よし夫 文</p> <p>④ 小松さんの考えとつなげながら、自分の感想や考えを持つとう。</p>	<p>筆者の考え</p> <p>本当にどの家にも言えるのかな。</p> <p>「Go To ハウス キャンペーン」のやり方</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・聞き手は行きたい国を選び、話し手は順番にしようかいする。しようかいしたら、自分の考えを伝える。</li><li>・全員がしようかいした後は、交流タイムで聞き手も自分の感想や感想を伝える。</li><li>・時間が来たら、聞き手は次のグループに移動する。</li></ul>	<p>⑤ 世界にはいろいろな家があるけれど、どの家も小松さんの考えの通りになっている。</p>
--	---	---